

日時：令和4年12月1日（木）9：10～12：20
場所：富山短期大学 キャンパス内
主催：北陸信越運輸局
協力：富山地方鉄道株式会社、富山県タクシー協会
対象者：富山短期大学幼児教育学科の学生（77名）

○実施概要

富山短期大学幼児教育学科の学生を対象に、バリアフリーについての理解を深めることでボランティア意識を高めていただき、誰もが高齢者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけて快くサポートできる社会（心のバリアフリー）の構築を目指すことを目的にバリアフリー教室を開催しました。

当日は、手や足に重りを付けたり、白内障を再現したゴーグルを着用した高齢者疑似体験や、目が見えない状態で折り紙を折ってもらう視覚障害者疑似体験、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーに乗降する車椅子体験などを実施しました。

○参加者の声

～高齢者疑似体験～

- ・介助をしてみて、色んな視点で学校を見ることができた
- ・自分の祖父がこのような体感だと分かり関わり方の見直しをしようと思った
- ・パートナーが視界が悪いと言って度々ぶつかっていたので、誘導は大切だと思った
- ・トイレの手すりの大切さを感じた
- ・本人がしようとしてもできないことを否定するのではなく、どのような方法がよいかを考えて丁寧に向き合っていきたいと思った

～視覚障害者疑似体験～

- ・見えないからこそ、「どこ」に「何を」と具体的に伝えることが必要だと感じた
- ・説明する側の時に、適切にわかりやすく説明できず「違う！」ばかり言ってしまって相手の気分を悪くさせてしまった
- ・目が見えなくてどうしたらいいか分からなかったけど、パートナーがわかりやすく伝えてくれたことで安心することができた
- ・言葉だけで伝える難しさを感じたので、わかりやすい言葉をかけてあげるよう心がけたい
- ・人に説明する力を高めることができた

～車椅子体験～

- ・乗っている人が安心できるように、段差を通るとき以外も声をかけてあげることが大切だと思った
- ・バスやタクシーに車椅子で乗る体験はなかなかできないのでいい経験だった
- ・バスへの乗車がすごく怖かったし、不便さをすごく感じた
- ・最初は楽しそうだと思ってお手本を見ていたが、実際に体験してみると体力が必要で支援する側の大変さを知った
- ・車に乗り込むという1つの動作が増えることで、支援する側の平地を移動する時とは違った工夫が必要



【車椅子体験（ノンステップバス）】

【車椅子体験（UDタクシー）】



【高齢者疑似体験】

【視覚障害者疑似体験】